

第一部（研究発表と懇談会）

【研究発表】（1）「3世紀中国人が音写した倭語・倭地名について」

尾関 育三氏

発表内容：

昨年11月度発表の続編で、説明内容は以下のようでした。斎藤氏の代読後に尾関氏が解説され、「邪馬壹」も「邪馬臺」も第2字と第3字を上古音で反切読みすれば、**いずれも「ヤメ」**である。

質疑：

- ①発音記号の再確認と修正指摘、②依拠した長田夏樹教授の研究発表1957年は古すぎる、③学研新漢和辞典での藤堂明保注への解釈の相違指摘、などの意見が出て、全体として結論への賛同は得られなかったようです。（発表10分・質疑25分）

。

【研究発表】（2）「『和田家文書』から見たヤマト偽史」

安彦 克己氏

発表内容：

発表は前半と後半に分かれ、前半では、先月の発表に関連した事項

（①春期実施の東北旅行、②今秋実施予定の九州旅行）の説明がありました。

①東北地方の「鉄の歴史」として、岩手県山田町での鉄の出土状況の説明年表に三千年の文化なしの「空白時間帯」がある理由。

②筑前大島にある安倍宗任の墓と茨城県水海道市の宗任神社の紹介、あわせてアラハバキ神社が各地にあることを指摘されました。

後半、本題の『和田家文書』から見たヤマト偽史に関する説明があり、その要旨は次のようでした。

③斎藤光政著『偽書「東日流外三郡誌」事件』発刊以後の偽書扱いがやまない東京新聞の記事とそれへの抗議文の紹介等。

④『和田家文書』群にみる「ヤマト偽史」について述べた**9件の史料を解説**されました。なお、次のような指摘と説明がありました。

①古田先生は青森で斎藤光政の取材を一度受けたが、斎藤光政は一度も先生を訪問しなかった。

②「吾が國より倭國の天皇となりしは**大根子彦**にして、世に是を孝元天皇と曰ふなり」の**大根子彦**は、**東日流勢（すがる）がヤマトを侵略した時に一人だけ引き上げずに留まって当地を統治した**（発表75分、質疑15分）

【懇談会】

時間がなく流会となりました。

【休憩】

第二部（勉強会と読書会）

司会と説明は新保幹事

【勉強会】「古田武彦『盗まれた神話』その八

（1）対象：①第十二章【『記』と『紀』のあいだ】 ②第十三章【天照大神はどこにいたか】でした。

（2）要点：①第十二章に関しては次のようでした。

本章は4節から構成され、『古事記』序文と『日本書紀』天武十年三月条とを関連づけながら、

①「削偽定実」の意味、②『記紀』の先後論争、③『古事記』偽作説について論証を進めておられます。

【質疑等】

『記・紀』の目的はそれぞれ日本向けと唐国向けという意見に関して、『書紀』の目的についても日本向けとする反論が展開されました。

【読書会】「岩波文庫『日本書紀』持統紀その八」

（1）対象：持統八年条と九年条。トピックとして、「正月条の類似事項」の紹介がありました。

（2）要点：八年条の大きな記事は「12月に藤原宮への遷居」のみで、九年条には特出すべき記事はありません。

質疑：

①八年春条で、近江益須郡に湧出した醴泉の効用に伴う賜与記事の特出は、朝廷の地位を高める効果があったのだろう。

②同冬条の「藤原宮への遷居」に関しては、リモート参加者から、飛鳥地区から新益京への宮地移動との見解があるとの話と木簡の出土傾向について説明がありました。この他にも様々な意見や情報提供があり、極めて活発でした。（解説・質疑35分）

ご意見・ご質問、資料請求はメールで[\[info@tokyo-furutakai.com\]](mailto:info@tokyo-furutakai.com)**までご連絡下さい。**